

農家の生活改善(10)

近代性をもった衣服

今月の担当は 寺迫 信子さんです

現在、農業構造改善や生活改善を行なって近代化への歩みを進めています。その中で近代的な衣生活の衣服について考えてみましょう。

私達が生活するために必要な被服は大きくわけますと、次のように3つにわけられます。

- ・生活活動に従事する被服、
- ・休養する時の被服、
- ・個人生活や社会生活をする時の被服、

に分類できます。

1、生産に従事する時の農作業衣の近代化

わたしたちは、毎日の生活が健康で、楽しいものでありたいと願っています。そのためには、衣服も大きな役割を果たしています。1日の中の生活時間は農作業に従事するのが最も多い状態です。

換言すれば、一生の大半が農作業に従事していることになるわけです。そこでその時に着用する衣服がおろそかにされ古着やボロが当然とされたり、汚れたものを着用しても当然のように考えていますと、一生の大半をみじめな姿で過ごすことになり、味気ない淋しいものになります。

勿論、作業衣はその時々に従事する作業の状態に適し、能率的な働き易いものでなくてはならないものです。それに加えて個性的な美しいものが必要になります。牛の品評会でも、勿論、その健康度が中心で、そこからかもし出す均衡のとれた体形と、毛並み等総合的な美しさではないかと思えます。それらと同様に農作業衣姿でも、心身共の健康美が基礎となり、その健康美を一層引きだてるべく、機能的で個性美あふれた衣服の着用がなされてこそ、立派なもので魅力あふれるものです。いかに健康そうな肉体でもボロ着等では精神的な健康美はマイナスで、肉体の健康まで阻害されます。

そこで、作業着は古くなったものを作業着として

使うのではなく、初めから、作業の種類、場所、目的などを考慮して衛生的で能率的で個性美の発揮できるもの準備しなければなりません。

最近では既製品の着用が多いのですが、既製品でも単に目先の安いものに捉われるのではなく、本当に良いもので、耐久性のある近代的なものを選ぶべきです。

酪農作業の乳しぼり等の作業衣は農作業で汚れたものでなく、頭髪が乳の中に入らないように頭をおおうと共に、乳しぼり用の清潔なエプロンを着用するぐらいの態度が必要です。

また炊事等を農作業衣で行なう場合が多いのですが、近代的な生活は汚れたものを脱いで、きれいな日常衣と、清潔な割烹前掛に着がえなければなりません。勿論、農作業衣の姿で夕食をするのではなく、日常衣に着かえて、さっぱりした姿で家族と共に、楽しい夕食や一家団らんのひと時を持ちますと、1日の激しい労働の疲れも、精神的な疲労も軟らぎ、明日の生産への活力も盛り上がることと信じます。

2、日常衣の近代化

現在、農家の主婦の方たちの日常生活は、県内で行なった調査結果で見ますと朝起きて夜寝るまで作業衣を着る人や、お風呂に入るまでの人が大変多い状態です。このことは色々原因がありますが、今までの習慣と、忙しい農作業の合間に炊事をし、しかも、炊事の場所は土間で土足のまま炊事をするので、美しい着物姿で炊事しますと、汚れる心配のある暗い台所等のために作業衣姿が適しているということも一原因でしょう。しかし、これからの炊事施設は、清潔で衛生的な明るい台所で、栄養的な食事作りのできる所となります。従ってこの様な所で働く主婦は農作業衣姿でなく、真白い割烹前掛をかけた日常衣姿が望まれます。

しかし、忙しい中で、日常衣に着かえるには、それにふさわしい日常衣が考えられなければなりません。

岡山畜産便り 1965.03

ん。

次は、日常衣と外出衣等の近代化について申し述べます。

(普及教育課 専門技術員)